



明治論壇の一大議論 捕虜は可か不可か？

100781093

鳥居 丈誉

1. 捕虜は自決が理想

A)開戦早々→日本軍に多数の捕虜出現→捕虜容認、自害→
上記の意見に別れ論争

B)浮田和民→「捕虜不可避論」を熱論



C)「捕虜不可避論」

ア) 内容

a) 死亡動機→

義務：可

名誉：不可→

野蛮、臆病

b) 生還が目的

c) 捕虜：敵国に游学



2. 浮田への反論

A) 佐藤正の反論

軍人の士気を軽視



人員、材料、学術の三条件→戦勝を
決定→安易な考え方

B) 井上哲次郎→浮田演説の厳しい批判



C)浮田論説の論争

→昭和初期より議論の風通しが良好

D)日本人捕虜の様相の複雑化の下地



3. 実情・・・会津開戦以降

A) 戦闘の最終段階

→ 敵味方の混戦

→ そのうちに拘束 → 捕虜



4. 奉天大戦以降

A) 精兵が欠乏

→ 30代後半の老兵が増加

→ 将兵の捕虜が増加

B) 事件 → 残存部隊172名捕縛 → 油断
と関係なく苦戦



5. 日本人捕虜生活

A)戦地で負傷中→私有品を強奪

B)市民への見世物

C)食費の没収

→一日中食事不可→ひどければ二
昼夜絶食



D) 歩行困難者の待遇

介助歩行者→銃床尾で殴打
→補助者も足蹴

E) 日本政府の見解

→事後では事実確認は難航
→それ以上の追求は回避



6. その他捕虜の処遇

A)健康面

ア) 現地の日本と異なる気候環境

→ 障害者、呼吸疾患者が多数

→ 看護人と早期帰国処置不可

イ) 看護婦 → 看守が厳重 → その中で捕虜の苦労を慰労対応 → 敵意なく対応



ウ)野戦病院は全体的に不完全
→設備は不十分

エ)医者→対応が下手で不親切



B)休養面

ア)わら布団、毛布→各人に支給

イ)食事

野菜が少量、壊血病発症者若干名
→程なくして野菜の量増加



ウ) 酒類

原則禁止→記念日に飲酒可能

エ) 通信

日本からの手紙

→三ヶ月遅れて到着

手紙→日本へ発送可能



オ) 散策

時間と場所制限の規制→次第に緩和
散策時間、一時間5人→2時から4時

カ) 情報

新たな捕虜→入所

ロシアの新聞→これらが主な情報源



キ) 処罰

命令違反

支給品の紛失

ロシア兵の罵倒

泥酔状態での論争

→以上が主な処罰理由

